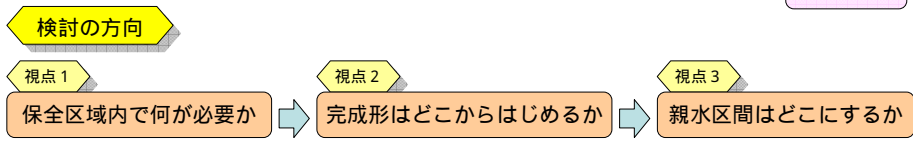
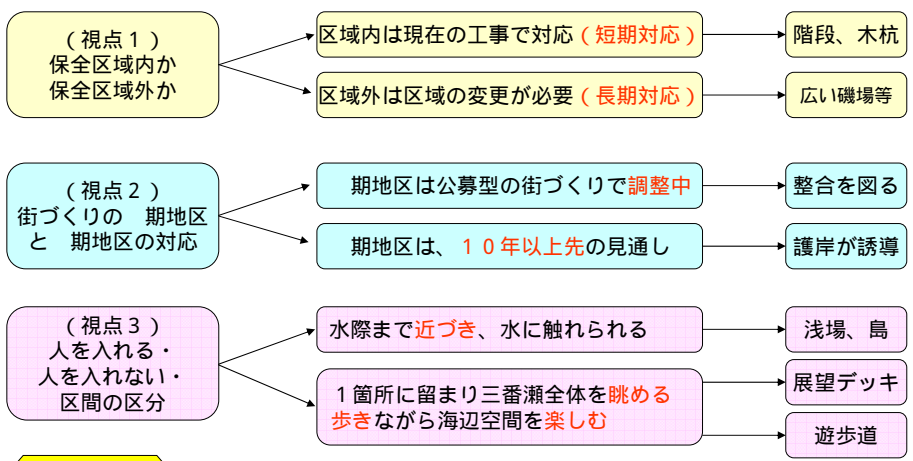


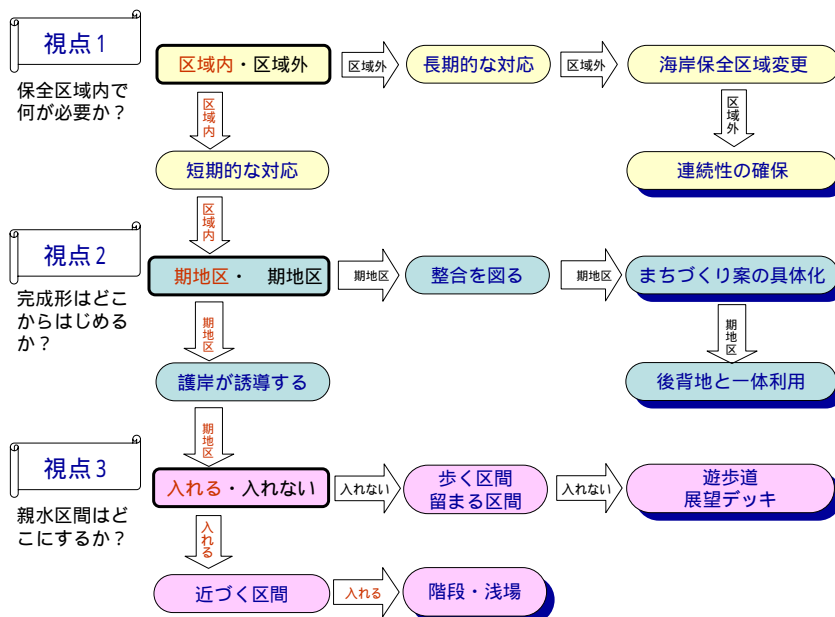
護岸バリエーションの検討

平成20年5月

1. バリエーション検討の視点



2. バリエーション検討のフロー



2

3. バリエーション検討の基本理念

基本理念



テーマ

三番瀬にふさわしい

海と陸との連続性(護岸)とは？

ポイント

石積み護岸

まちづくりへの対応

人の出入り(ゾーニング)
転落防止、水辺へのアクセス、
浅場づくり、磯場づくり、展望デッキ

バリエーションの導入場所の整理
保全区域内・外(短期、長期)

3

4. バリエーション検討の配慮事項

施工後、被覆石が抜け落ち斜面に穴が空き危険である
中詰め石などを被覆石の間に充填することで抜け落ちに
対応する。

施工後、潮間帯にカキ、フジツボ、藻類等が着生し、歩行等
に危険である
利用区域と非利用区域とに区分し、利用区域ではバリエー
ションで安全確保する

被覆石に花崗岩以外の柔らかなイメージの石が使えないか
砂岩(鋸南産)の大きな物は採算性の問題から生産していな
いため、設計上の必要重量の確保が課題である

転落に対する対処が必要ではないか
転落防護柵の設置や浅場をつくるなど安全対策を検討する。

4

全体的に人工的で単調な印象である
バリエーションで形状に変化をもたせる

防犯上危険そうである
防犯灯の設定などについて街づくり計画と調整する

利用上危険そうである
利用区域と非利用区域とに区分し、利用区域ではバリエー
ションで安全確保する

転落防護柵の設置や浅場をつくるなど安全対策を検討する。

5